

水稻 除草剤一覧

1 表示法と使用上の注意事項

- (1) 作期：普…普通期 早…早期 共…共通
- (2) 適用雑草：表層剥離は「アオミドロ・藻類による表層剥離」を示す。
オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な中後期処理剤との組み合わせで使用する。
- (3) 移植栽培で除草効果および薬害の面から使用を避けるべき事項を次とおり略記する。
- ・漏水田：減水深が 2cm／日以上の漏水の大きな水田
 - ・深水：極端な深水となった水田
 - ・軟弱苗：軟弱な苗を移植した水田
 - ・強還元田：未熟有機物多用田、透水不良田などの強還元田
 - ・浅植え：極端な浅植えの水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
 - ・冷水：冷水かけ流し条件が加わる中山間地帯
- (4) 登録内容は、2025年7月1日現在
- (5) 本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。
- (6) 剤型については、「II 除草剤による防除」を参照。

[参考]

雑草の葉齢の標準的進度（農産部）

代かき 後日数	早期栽培（4月下旬植）			普通期栽培（6月中～下旬植）			
	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ウリカワ
5日	発生前	発生前	発生前	0.5～1.2	発生始	発生始	発生始
7	発生始	発生前	発生始	1.2～2.0	1.0～1.5	1.0～1.5	1.0～1.5
10	0.5～1.0	発生始	0.5～1.0	2.0～2.5	1.5～2.0	1.5～2.0	2.0～2.5
12	1.0～1.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.5～3.2	2.5～3.0	2.5～3.0	3.0～3.5
15	1.5～2.0	1.0～1.5	2.0～2.5	3.2～3.8	3.0～4.0	3.0～4.0	3.5～5.0
20	2.0～2.5	1.5～2.5	2.5～3.5	3.8～4.5	4.0～5.0	4.0～5.0	5.0～6.5

注) 単位は葉齢

2 農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

3 除草体系

移植栽培においては、下表を参考にして地域や前年までの雑草防除体系を考慮し、最も効果的な防除体系を選ぶ。

雑草の種類		1回目	2回目
一年生 イネ科	ノビエ	一発処理剤	シハロホップ [®] フチル、メタミホップ [®] を含む中後期剤
	アゼガヤ		
多年生	セリ	対象雑草に適用のある一発処理剤	2,4-PA、MCPA、ヘキスラム、ヘンタゾンを含む中後期剤
	クログワイ		
	コウキヤガラ		
S U 抵抗性	イヌホタルイ	非S U剤あるいは、ビラクロニル、クロメフロップ [®] 、ヘンツ [®] ヒシクリン、ブロモバチド [®] 等を含む一発処理剤	
	アゼナ		
	コナギ		

注) 1 2回目は雑草の発生が多い場合に処理する。

- 2 薬剤処理時期は雑草や水稻の生育ステージを考慮して決める。
- 3 薬剤によって処理時期が適期内でも遅い場合にコナギなどの広葉雑草が問題になることがある。広葉雑草の多発が予想される場合には、適期内でも早い時期に処理を行い、除草剤一覧を参考にして除草剤を選定する。

4. 移植栽培

2025年7月1日現在

(1) 移植後生育初期（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
移植後生育初期	ベクサーフロアブル (1999)	ペントキサゾン 2.9
	ホットコンビフロアブル (2015)	テニルクロール 4.0 ベンゾビシクロン 4.0
	ユニハーブフロアブル (1995)	プレチラクロール 5.0 ベンゾフェナップ 20.0

(2) 初期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初期一発処理	クサホープD粒剤 (1998)	ジメタメトリン 0.2 ピラゾレート 6.0 プレチラクロール 1.5
	スラッシュヤ1キロ粒剤 (2001)	ジメタメトリン 0.6 ピラゾレート 12.0 プレチラクロール 4.5 プロモブチド 6.0
	ナイスショットジャンボ (2002)	カフェнстロール 4.2 ピラゾレート 18.0 プロモブチド 18.0
	マキシーMX1キロ粒剤 (2013)	プレチラクロール 4.2 メソトリオン 0.6

4. 移植栽培

(3) 初・中期一発処理 (非SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
アシュラジヤンボ (2023)	トリアファモン ピラクロニル ベンゾビシクロロン	1.25 5.0 5.0
アシュラ400FG (2026)	トリアファモン ピラクロニル ベンゾビシクロロン	1.25 5.0 5.0
アシュラフロアブル (2020)	トリアファモン ピラクロニル ベンゾビシクロロン	0.96 3.8 3.8
アシュラ1キロ粒剤 (2023)	トリアファモン ピラクロニル ベンゾビシクロロン	0.5 2.0 2.0
イッセンジヤンボ (2026)	ピリミスルファン フェントラザミド ブルモブチド	3.0 12.0 36.0
イッセンジヤンボ1キロ粒剤 (2026)	ピリミスルファン フェントラザミド ブルモブチド	0.8 3.0 9.0
イネキングジヤンボ (2011)	ピラクロニル ピラゾレート ベンゾビシクロロン	4.0 20.0 4.0
イネキングフロアブル (2011)	ピラクロニル ピラゾレート ベンゾビシクロロン	3.6 20.0 4.0
イネキング1キロ粒剤 (2010)	ピラクロニル ピラゾレート ベンゾビシクロロン	2.0 10.0 2.0
イネリーフジヤンボ (2023)	フェントラザミド テフリルトリオン クロメプロップ	7.5 7.5 11.2
イネリーフロアブル (2023)	フェントラザミド テフリルトリオン クロメプロップ	5.7 5.7 8.5
イネリーフ1キロ粒剤 (2023)	フェントラザミド テフリルトリオン クロメプロップ	3.0 3.0 4.5
エーワンジヤンボ (2012)	オキサジクロメホン テフリルトリオン	2.0 10.0
エーワンフロアブル (2013)	オキサジクロメホン テフリルトリオン	1.2 6.0
エーワン1キロ粒剤 (2011)	オキサジクロメホン テフリルトリオン	0.8 3.0
エンペラー1キロ粒剤 (2020)	ピラクロニル ピリミノバッケメチル フェンキノトリオン	2.0 0.75 3.0
カウンシルエナジージヤンボ/ アバンティジヤンボ (2020)	トリアファモン フェンキノトリオン フェントラザミド	1.2 7.5 7.5
カウンシルエナジーフロアブル/ アバンティフロアブル (2020)	トリアファモン フェンキノトリオン フェントラザミド	1.0 5.7 5.7
カウンシルエナジー1キロ粒剤/ アバンティ1キロ粒剤 (2020)	トリアファモン フェンキノトリオン フェントラザミド	0.5 3.0 3.0
ガンガンジヤンボ (2017)	ピリミスルファン フェノキサスルホン	2.0 8.0
ガンガン豆つぶ250 (2017)	ピリミスルファン フェノキサスルホン	2.0 8.0
ガンガン1キロ粒剤 (2017)	ピリミスルファン フェノキサスルホン	0.5 2.0
キマリテジヤンボ (2017)	イブフェンカルバゾン テフリルトリオン	8.3 10.0
キマリテフロアブル (2017)	イブフェンカルバゾン テフリルトリオン	5.0 6.0
キマリテ1キロ粒剤 (2017)	イブフェンカルバゾン テフリルトリオン	2.5 3.0
サキガケ楽粒 (2023)	イブフェンカルバゾン テフリルトリオン フロルビラウキシフェンベンジル	10.0 12.0 2.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
ジェイソウルジヤンボ (2021)	シクロピリモレート ピラゾレート フェントラザミド	6.7 13.3 6.7
ジェイソウルフロアブル (2021)	シクロピリモレート ピラゾレート フェントラザミド	5.5 11.0 4.5
ジェイソウル1キロ粒剤 (2021)	シクロピリモレート ピラゾレート フェントラザミド	3.0 6.0 3.0
ジェイフレンドジヤンボ (2019)	ピラクロニル テフリルトリオン オキサジクロメホン	0.8 7.5 5.0
ジェイフレンドフロアブル (2018)	ピラクロニル テフリルトリオン オキサジクロメホン	3.8 5.7 0.6
ジェイフレンド1キロ粒剤 (2018)	ピラクロニル テフリルトリオン オキサジクロメホン	2.0 3.0 0.3
ジャイロ1キロ粒剤 (2019)	イブフェンカルバゾン ベンゾビシクロロン ベンゾフェナップ	2.5 3.0 8.0
ジャスター1キロ粒剤/ クサウェポン1キロ粒剤 (2022)	シクロピリモレート トリアファモン ピラゾレート	3.0 0.5 6.0
ジャスター1キロ粒剤/ クサウェポンジヤンボ (2022)	シクロピリモレート トリアファモン ピラゾレート	7.5 1.2 15.0
ジャンダルムMX豆つぶ250 (2021)	ピリフタリド ピリミスルファン メソトリオン	7.2 2.0 3.6
ジャンダルムMXジヤンボ (2021)	ピリフタリド ピリミスルファン メソトリオン	7.2 2.0 3.6
ジャンダルムMX1キロ粒剤 (2021)	ピリフタリド ピリミスルファン メソトリオン	1.8 0.5 0.9
シングキジヤンボ (2025)	フェンキノトリオン フェントラザミド	3.0 3.0
シングキ1キロ粒剤 (2025)	フェンキノトリオン フェントラザミド	3.0 3.0
ストレングス1キロ粒剤 (2024)	テフリルトリオン トリアファモン フロルビラウキシベンジル	3.0 0.5 0.45
ゼアスジヤンボ (2026)	オキサジクロメホン ジメスルファゼット ピクロクラニル	1.3 5.0 6.6
ゼアス1キロ粒剤 (2026)	オキサジクロメホン ジメスルファゼット ピクロクラニル	0.4 1.5 2.0
ピラクロエース1キロ粒剤/ カリュード1キロ粒剤 (2018)	ピラクロニル ベンゾビシクロロン ベンゾフェナップ	2.0 2.0 8.0
プライオリティ1キロ粒剤 (2020)	トリアファモン フェンキノトリオン	0.5 3.0
ボデーガードジヤンボ (2012)	テフリルトリオン フェントラザミド	7.5 7.5
ボデーガード1キロ粒剤 (2011)	テフリルトリオン フェントラザミド	3.0 3.0
ワザアリ楽粒 (2024)	イブフェンカルバゾン テフリルトリオン	10.0 12.0

(4) 初期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初期一発処理	イノーパDX 1キロ粒剤 5.1 (2008)	ダイムロン 4.5 フェントラザミド 2.0 プロモブチド 7.5 ベンスルフロンメチル 0.51
	カットダウン 1キロ粒剤 (2016)	イマゾスルフロン 0.9 ピラクロニル 2.0
	クサトリエースL ジャンボ (1999)	カフェンストロール 7.0 ダイムロン 15.0 ベンスルフロンメチル 1.7
	クラッシュE X ジャンボ (2001)	イマゾスルフロン 1.8 カフェンストロール 4.2 ダイムロン 20.0
	マサカリL ジャンボ (2003)	インダノファン 2.8 クロメプロップ 7.0 ベンスルフロンメチル 1.0
	ヨシキタ 1キロ粒剤 (2010)	イマゾスルフロン 0.90 プロモブチド 9.0 ペントキサゾン 3.9

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	アカツキジャンボ (2024)	フェノキサスルホン 8.0 フェンキノトリオン 12.0 メタゾスルフロン 4.0
	アカツキ豆つぶ250 (2024)	フェノキサスルホン 8.0 フェンキノトリオン 12.0 メタゾスルフロン 4.0
	アカツキプロアブル (2024)	フェノキサスルホン 3.8 フェンキノトリオン 5.7 メタゾスルフロン 1.9
	アカツキ 1キロ粒剤 (2024)	フェノキサスルホン 2.0 フェンキノトリオン 3.0 メタゾスルフロン 1.0
	アクシズMX ジャンボ /ウツベシMX ジャンボ (2025)	ピリファリド 3.0 メソトリオン 3.0 メタゾスルフロン 2.4
	アクシズMX 1キロ粒剤 (2014)	ピリファリド 2.7 メソトリオン 0.90 メタゾスルフロン 0.80
	アッパレZ ジャンボ (2017)	ピラクロニル 5.0 プロビリスルフロン 2.25 プロモブチド 22.5
	アッパレZ プロアブル (2017)	ピラクロニル 3.7 プロビリスルフロン 1.7 プロモブチド 16.8
	アッパレZ 1キロ粒剤 (2017)	ピラクロニル 2.0 プロビリスルフロン 0.9 プロモブチド 9.0
	アピログロウMXエアーワーク (2023)	プレチラクロール 11.25 ピリファリド 3.75 メソトリオン 2.25 ピラゾスルフロンメチル 0.75
	アピログロウMX ジャンボ (2016)	ピラゾスルフロンメチル 0.75 ピリファリド 3.75 プレチラクロール 11.25 メソトリオン 2.25
	アピログロウMX 1キロ粒剤 (2016)	ピラゾスルフロンメチル 0.3 ピリファリド 1.5 プレチラクロール 4.5 メソトリオン 0.9
	アピロトップMX 1キロ粒剤 5.1 (2015)	ピリファリド 1.2 プレチラクロール 4.6 ベンスルフロンメチル 0.51 メソトリオン 0.90
	イッポンD フロアブル (2015)	ダイムロン 8.0 ピラクロニル 4.0 プロモブチド 12.0 ベンスルフロンメチル 1.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	イッポンD1キロ粒剤 5.1 (2015)	ダイムロン 4.0 ピラクロニル 2.0 プロモブチド 6.0 ベンスルフロンメチル 0.5
	ウルティモZ ジャンボ (2021)	シクロピリモレート 8.6 ピラゾレート 17.1 プロビリスルフロン 2.6
	ウルティモZ フロアブル (2021)	シクロピリモレート 5.5 ピラゾレート 11.0 プロビリスルフロン 1.7
	ウルティモZ 1キロ粒剤 (2021)	シクロピリモレート 3.0 ピラゾレート 6.0 プロビリスルフロン 0.9
	オイカゼZ ジャンボ /メガゼータ ジャンボ (2025)	ピラクロニル 5.0 プロビリスルフロン 2.25
	オイカゼZ250FG (2025)	プロビリスルフロン 3.6 ピラクロニル 8.0
	オイカゼZ フロアブル /メガゼータ フロアブル (2025)	ピラクロニル 3.9 プロビリスルフロン 1.7
	オイカゼZ1キロ粒剤 (2025)	ピラクロニル 2.0 プロビリスルフロン 0.9
	カイリキZ ジャンボ (2021)	イプフェンカルバゾン 8.3 テフリルトリオン 8.3 プロビリスルフロン 3.0
	カイリキZ フロアブル (2022)	イプフェンカルバゾン 4.8 テフリルトリオン 4.8 プロビリスルフロン 1.8
	カイリキZ1キロ粒剤 (2022)	イプフェンカルバゾン 2.5 テフリルトリオン 2.5 プロビリスルフロン 0.9
	カウンシルコンプリート ジャンボ /ボデーガード プロ ジャンボ (2018)	テフリルトリオン 10.0 トリアファモン 1.6
	カウンシルコンプリート フロアブル /ボデーガード プロ フロアブル (2018)	テフリルトリオン 5.8 トリアファモン 1.0
	カウンシルコンプリート1キロ粒剤 /ボデーガード プロ1キロ粒剤 (2018)	テフリルトリオン 3.0 トリアファモン 0.5
	カクシン 楽粒 (2026)	イプフェンカルバゾン 10.0 ジメスルファゼット 6.0 テリフルトリオン 10.0
	カクシン1キロ粒剤 (2026)	イプフェンカルバゾン 2.5 ジメスルファゼット 1.5 テリフルトリオン 2.5
	カチドキZ 楽粒 (2025)	プロビリスルフロン 3.6 フルロピラウキシフエンベンジル 2.0
	カチドキZ1キロ粒剤 (2025)	プロビリスルフロン 0.5 フルロピラウキシフエンベンジル 0.9
	カチボシL ジャンボ (2016)	イブフェンカルバゾン 8.3 テフリルトリオン 6.7 ベンスルフロンメチル 1.7
	カチボシL フロアブル (2016)	イブフェンカルバゾン 5.0 テフリルトリオン 4.0 ベンスルフロンメチル 1.0
	カチボシL1キロ粒剤51 (2016)	イブフェンカルバゾン 2.5 テフリルトリオン 2.0 ベンスルフロンメチル 0.5
	ガツントZ ジャンボ (2024)	プロビリスルフロン 4.5 テフリルトリオン 10.0
ガツントZ200FG (2025)	プロビリスルフロン 4.5 テフリルトリオン 10.0	
ガツントZ フロアブル (2023)	プロビリスルフロン 1.7 テフリルトリオン 3.8	
ガツントZ1キロ粒剤 (2023)	プロビリスルフロン 0.9 テフリルトリオン 2.0	
キラリ ジャンボ (2022)	イマゾスルフロン 2.25 ピラクロニル 5.0 テフリルトリオン 5.0	
キラリ フロアブル (2022)	イマゾスルフロン 1.7 ピラクロニル 3.8 テフリルトリオン 3.8	

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
キラリ 1 キロ粒剤 (2021)	イマゾスルフロン ピラクロニル テフリルトリオン	0.9 2.0 2.0
銀河ジャンボ (2015)	ダイムロン ピラクロニル メタゾスルフロン	25.0 5.0 2.5
銀河フロアブル (2015)	ダイムロン ピラクロニル メタゾスルフロン	20.0 4.0 2.0
銀河 1 キロ粒剤 (2014)	ダイムロン ピラクロニル メタゾスルフロン	10.0 2.0 1.0
ゴエモン1キロ粒剤 (2015)	イマゾスルフロン イプフェンカルバゾン プロモブチド	0.9 2.5 9.0
コメットフロアブル (2019)	テフリルトリオン ピラクロニル メタゾスルフロン	4.0 4.0 1.2
サラブレッドGOジャンボ (2023)	ピラクロニル イマゾスルフロン オキサジクロメホン プロモブチド	2.5 2.3 1.5 22.5
サラブレッドG0400FG (2023)	ピラクロニル イマゾスルフロン オキサジクロメホン プロモブチド	2.5 2.25 1.5 22.5
サラブレッドG0フロアブル (2023)	ピラクロニル イマゾスルフロン オキサジクロメホン プロモブチド	1.9 1.7 1.1 16.7
サラブレッドG0フロアブル (2023)	ピラクロニル イマゾスルフロン オキサジクロメホン プロモブチド	1.9 1.7 1.1 16.7
サラブレッドG01キロ粒剤 (2023)	ピラクロニル イマゾスルフロン オキサジクロメホン プロモブチド	1.0 0.9 0.6 9.0
サラブレットKAIジャンボ (2015)	イマゾスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	2.25 0.75 5.0
サラブレットKAI400FG (2024)	イマゾスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	2.3 0.75 5.0
サラブレットKAIフロアブル (2015)	イマゾスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	1.7 0.57 3.8
サラブレッドKAI 1キロ粒剤 (2014)	イマゾスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	0.9 0.4 2.0
シグナスジャンボ (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	2.0 6.7 10.0
シグナスフロアブル (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	1.2 4.0 6.0
シグナス1キロ粒剤 (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	0.6 2.0 3.0
忍 1 キロ粒剤 (2013)	イマゾスルフロン ピラクロニル ベンゾビシクロロン	0.90 2.0 2.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
セイテンジャンボ (2025)		オキサジクロメホン ジメタメトリン フェンキノトリオン ベンスルフロンメチル
セイテン1キロ粒剤 (2025)		オキサジクロメホン ジメタメトリン フェンキノトリオン ベンスルフロンメチル
ゼータジャガージャンボ (2022)		プロピリスルフロン フェンキノトリオン ペントキサゾン
ゼータジャガーフロアブル (2022)		プロピリスルフロン フェンキノトリオン ペントキサゾン
ゼータタイガージャンボ (2018)		プロピリスルフロン プロモブチド ペントキサゾン
ゼータタイガーフロアブル (2018)		プロピリスルフロン プロモブチド ペントキサゾン
ゼータハンマー1キロ粒剤 (2018)		ペントキサゾン プロピリスルフロン
ゼータプラスジャンボ (2021)		フェンキノトリオン プロピリスルフロン
ゼータプラス200FG (2025)		フェンキノトリオン プロピリスルフロン
ゼータプラスフロアブル (2021)		フェンキノトリオン プロピリスルフロン
ゼータプラス1キロ粒剤 (2021)		フェンキノトリオン プロピリスルフロン
ゼータワンジャンボ (2012)		プロピリスルフロン
センイチMXジャンボ フルパワーMXジャンボ (2017)		ピラクロニル フルセトスルフロン メソトリオン
ディオーレ1キロ粒剤 (2022)		オキサジクロメホン テフリルトリオン メタゾスルフロン
天空ジャンボ (2018)		メタゾスルフロン ベンゾビシクロロン フェントラザミド
天空フロアブル (2018)		メタゾスルフロン ベンゾビシクロロン フェントラザミド
天空 1 キロ粒剤 (2018)		メタゾスルフロン ベンゾビシクロロン フェントラザミド
ドリフ1キロ粒剤 (2021)		トリアファモン フェントラザミド エトキシスルフロン クロメプロップ
ノックアウト楽剤 (2025)		シメトリン テフリルトリオン トリアファモン ベンフレセート
バッチャリフロアブル (2011)		イマゾスルフロン ピラクロニル プロモブチド
バッチャリ 1 キロ粒剤 (2010)		イマゾスルフロン ピラクロニル プロモブチド
バッチャリ LX ジャンボ (2017)		ピラクロニル イマゾスルフロン プロモブチド オキサジクロメホン
バッチャリ LX フロアブル (2016)		ピラクロニル イマゾスルフロン プロモブチド オキサジクロメホン
フルスコアZジャンボ (2022)		プロピリスルフロン ラシコトリオナトリウム塩

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	フルスコアZ1キロ粒剤 (2022)	プロピリスルフロン 0.9 ランコトリオンナトリウム塩 2.1
	ブルゼータジヤンボ (2019)	プロピリスルフロン 4.5 ベンゾビシクロロン 10.0
	マスラオジヤンボ (2021)	イマゾスルフロン 4.5 ピリミノバックメチル 3.0 フェンキノトリオン 15.0
	マスラオプロアブル (2021)	イマゾスルフロン 1.7 ピリミノバックメチル 1.2 フェンキノトリオン 5.8
	マスラオ1キロ粒剤 (2020)	イマゾスルフロン 0.9 ピリミノバックメチル 0.6 フェンキノトリオン 3.0
	ラオウジヤンボ (2023)	ダイムロン 24.0 フェノキサスルホン 6.0 フェンキノトリオン 10.0 ベンズルフロンメチル 3.0
	ラオウフロアブル (2023)	ダイムロン 11.3 フェノキサスルホン 2.8 フェンキノトリオン 4.7 ベンズルフロンメチル 1.4
	ラオウ1キロ粒剤 (2023)	ダイムロン 6.0 フェノキサスルホン 1.5 フェンキノトリオン 2.5 ベンズルフロンメチル 0.8
	流星1キロ粒剤 (2022)	フェンキノトリオン 3.0 ペントキサゾン 2.5 メタゾスルフロン 1.0

(6) 生育中後期

除草剤名 (登載年)	成分(%)	適用雑草										使用上の注意
		ノビエ 水 一年生 雜草	マツバイ ホタルイ	ウリカワ ミズガヤツ リ	ヒルムシ ロ	コウキヤ ガラ	オモダカ ヘラオモ ダカ	セリ	クログワイ	表層剥離		
アレイルSC (2021)	ハロスルフロンメチル メタゾスルフロン 2.4	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●									1. 敷布後少なくとも2日間(湛水処理は3日間)はそのままの状態を保ち、入水はない。散布後、7日間は落水・かけ流ししない。 2. いぐさの栽培予定水田では使用しないこと	
アトカラSジャンボMX/ セカンドショットSジャンボMX (2018)	アジムスルフロン ペノキスラム メソトリオン 0.36 0.36 2.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●						● ● ●				
ヴィードコア1キロ粒剤 (2022)	プロルピラウキシフェンベンジル ペノキスラム ベンゾピシクロン 0.4 0.5 2.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●						●			1. 敷布に当たっては、水深3~5cmの湛水状態で田面に均一に散布してください。水の出入りを止め、少なくとも3~5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を露出させないように注意してください。散布後7日間は落水、かけ流ししないでください。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。	
クリンチャー1キロ粒剤 (1998)	シハロホップブル 1.8	●									1. 敷布する前に水の出入りを止め、湛水のままムラのないよう均一に散布する。散布後少なくとも3~4日間は湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、落水、かけ流ししない。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3. キュウスズメノヒエの防除は展開葉が水面に接する条件で使用する。	
クリンチャージャンボ (1999)	シハロホップブル 1.8	●									1. クリンチャー1キロ粒剤の1~2に準ずる。	
クリンチャーエW (2000)	シハロホップブル 30.0	●									1. 展着剤を加用して散布する。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3. 落水条件で散布する際は、撒きむらがないように均一に散布してください。 4. 湛水条件で散布する際は、散布する前に水の出入りを止め、湛水のまま均一に散布する。少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流ししない。 5. どうもろこし、ソルガム等イネ科作物及びキャベツ等の隣接田で使用する場合はこれらにかかるないよう注意する。	
クリンチャーバスME液剤 (1997)	シハロホップブル ペントゾンナトリウム塩 3.0 20.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	●								1. 高温条件では葉の白斑や葉枯れなどの薬害を生じることがあるので、散布後に高温が想される場合には、夕方に散布するなど高温条件を避け、出来るだけ多めの希釈水量を用い、低濃度液を水稻にかかるないように散布する。 2. 動力噴霧器での散布は薬害を生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理することが望ましい。 3. 敷布する前に落水状態にして水の出入りを止め(落水出来ない場合は出来るだけ浅水状態にして)ムラのないように均一に散布する。 4. 敷布後少なくとも3日間(浅水処理の場合は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流ししない。 5. ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツ等の発生盛期から増殖中期までが散布適期である。	
ゲバードジャンボ (2021)	ダイムロン ピラクロニル ベンゾピシクロン メタゾスルフロン 25.0 5.0 5.0 3.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●									1. いぐさの栽培予定水田では使用しない	
シアゲMF1キロ粒剤 (2020)	ビリミスルファン メタミホップ MCPB 0.60 0.90 2.40								● ●		1. 敷布に当たっては、水の出入りを止めて5cm以上の湛水をし、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(3~5cm)を保ち、田面を露出せたり、水を切らしたりしない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は有効な前処理剤との組み合わせで使用する。 3. 敷布後の急激な気温の上昇により薬害を生じることがある。	
テッケン1キロ粒剤 /ニトウリュウ1キロ粒剤 (2015)	ペノキスラム ベンゾピシクロン 0.5 2.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							●			
トドメMF乳剤 (2019)	メタミホップ 4.9	●									1. 湛水散布または落水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。	
トドメMF1キロ粒剤 (2019)	メタミホップ 1.4	●									1. 湛水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。	
トドメバスMF液剤 (2022)	ペントゾンナトリウム塩 メタミホップ 18.3 1.2	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							● ●		1. 敷布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流ししない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。	
粒状水中2, 4-D (1958)	2, 4-P Aエチル 1.4		水田雑草(イネ科を除く)								1. 湛水状態で散布する。漏水田では使用を避け、散布後は水の出入りを止めて、2日間以上湛水状態を保つ。 2. 粒剤は雑草への付着が少ないので効果が劣る。また遅効性なので、3~5日程度散布時期を早める。	
2, 4-Dアミン塩 (1999)	2, 4-P Aジメチルアミン 49.5		水田雑草(イネ科を除く)								1. 薬剤が雑草に良く付着するよう十分落水して、2, 4-D専用の散布器で出来るだけ株間に均一に散布する。 2. 降雨前の散布はさける。 3. 敷布後2~3日間は落水のままでし、灌水しない。 4. 噴霧器で散布すると除草効果は一層高くなるが、水稻の生育抑制も大きいので、生育旺盛な場合を除いては使用しない。 5. マツバイ、ホタルイ、ウリカワの多発田では、使用量の範囲内で散布量を多くする。	
ノブレクト乳剤 (2025)	フルロピラウキシフェンベンジル シロハップブル 2.1 10.6	● ●		● ●					●		1. 初期または一発処理剤との体系で使用する。 2. ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので対象外にする。 3. 落水またはごく浅く湛水して散布し、散布後3日以内に入水する。	
バサグラン・エアー1キロ粒剤 (2024)	ペントゾン 33.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	※水田一年生雑草はイネ科を除く						● ●	●	1. ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワでは発生盛期~増殖中期まで、オモダカでは発生盛期~発生抑止まで、クログワイでは草丈15~20cmまでに使用する。 2. 敷布後少なくとも3~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流ししない。 3. 無人航空機による省力散布が可能。	
バサグラン粒剤(ナトリウム塩) (1988)	ペントゾンナトリウム塩 11.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	※水田一年生雑草はイネ科を除く						● ●		1. 一年生広葉やカヤツリグサ科雑草および多年生広葉雑草に優れた効果を示す。イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかる。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 2. 十分に落水して散布する。散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流ししない。 3. 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。	
バサグラン液剤(ナトリウム塩) (1988)	ペントゾンナトリウム塩 40.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	※水田一年生雑草はイネ科を除く						● ●	●	1. バサグラン粒剤の1~3に準ずる。 2. 重複散布は薬害のおそれがあるので、均一散布につとめる。	
フォローアップ1キロ粒剤 ワイドアタックD1キロ粒剤 (2013)	ダイムロン ペノキスラム 10.0 0.60	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	※水田一年生雑草はイネ科を除く						●	●	1. 敷布する前に湛水状態(水深3~5cm)にして水の出入りを止め、ムラのないよう均一に散布する。 2. 敷布後少なくとも3~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流ししない。	
モゲトン粒剤 (1972)	A C N 9.0			ウキクサ類、藻類に適用あり							1. 河川、池などに流れ込んだ場合、魚類に被害を及ぼすので決して流出しないよう注意する。 2. 水稻3葉期以下の時期では薬害の恐れがあるので使用しない。	
レプラスジャンボ (2021)	ジメタメトリル ダイムロン テフリルトリオノン メタゾスルフロン 2.5 25.0 7.5 3.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							● ● ● ●		1. 敷布に当たっては、水の出入りを止めて5~6cmの湛水状態を保つ。 2. いぐさの栽培予定水田では使用しない。 3. 雜草の発生前から生育初期に有効なため、ノビエ4葉期までに時期を失しないように散布する。	
ロイヤント乳剤 (2024)	フルロピラウキシフェンベンジル 2.7	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							●	●	1. ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので対象外とする。 2. 落水またはごく浅く湛水して散布し、散布後3日以内に入水する。	
ワイドアタックSC (2012)	ペノキスラム 3.6	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							● ●		1. 敷布する前に落水状態(落水できない場合はごく浅水状態にして)にして水の出入りを止め、ムラのないように均一に散布する。 2. 敷布後7日間はそのままの状態を保ち、入水や落水、かけ流しをしない。 3. 敷布時期が遅くなると生育が進んだ雑草が多くなるので、登録範囲内で早めに散布する。 4. 効果の発現は遅く、効果の完成まで30~40日要することがある。	
ワイドショット1キロ粒剤 (2018)	ペノキスラム テフリルトリオノン 0.50 3.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							● ● ● ●			
ワイドパワー粒剤 (2014)	ペノキスラム ペントゾン 11.0	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							● ●		1. 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。	

5. 乾田直播

2025年7月1日現在

6. 湛水直播

2025年7月1日現在

処理法	除草剤名 (登載年)	成分(%)	適用雑草												使用上の注意	
			ノビエ	水田一年生雑草	マツバヤ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	オモダカ	ヘラオモダカ	セリ	クログワイ	表層剥離	
初期一発	トップガンLフロアブル (2009)	ピリミノバックメチル	0.56	●	●	●	●	●	●				●	●		1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生は場では体系処理で使用する。
		プロモブチド	17.0													
		ベンスルフロンメチル	0.93													
		ペントキサゾン	2.8													
中後期	トップガンG T 1 キロ粒剤51 (2009)	ピリミノバックメチル	0.45	●	●	●	●	●	●				●			1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生は場では体系処理で使用する。
		プロモブチド	9.0													
		ベンスルフロンメチル	0.51													
		ペントキサゾン	2.0													
後発	クリンチャー1キロ粒剤	シハロホップブチル	1.8	●												1. 移植に準ずる。
	クリンチャーE W	シハロホップブチル	30.0	●	●											1. 移植に準ずる。
																※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草
	クリンチャーバスマE液剤	シハロホップブチル	3.0	●	●	●	●	●	●							1. 移植に準ずる。
		ベンタゾンナトリウム塩	20.0													
	2, 4-Dアミン塩	2, 4-PAGメチルアミン	49.5	水田雑草(イネ科を除く)に適用あり												1. 移植に準ずる。
(2022)	トドメバスMF液剤	ベンタゾンナトリウム塩	18.3	●	●	●	●	●	●				●	●		1. 敷設後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流ししない。
		メタミホップ	1.2													2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

7. 除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果								処理適期幅	持続効果	土壤中の移動性		
						ヒエ ホタルイ カヤツリ グサ	コナギ	その他広葉 草	ホタルイ カリカラ	ミズ カヤツリ	クロク ワイ	モダ カ						
MCPA 2,4-PA	フェノキシ系	茎葉、根	ホルモン型 移行性	ホルモン作用の攪乱	ロール葉 下葉枯れ	×	○	○	○	○	○	—	○	雑草生育期(コナ ギ2~5L)	長	小		
アゾムスルロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	△	◎	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	中		
イソフエンカルバゾン	トリアゾリノン系	根部、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	○	○~ ○	○	○	×	○	×	△	—	極長	極小	
イマゾスルロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	△	○	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	小		
インダノファン	オキシラン系	根、幼芽部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	○	○	○	○~ ○	△~ ○	×	×	—	発生前~ノビエ 2.5L	長	小		
エヌブロカルブ	チオカーペメト系	根、幼芽(基部)	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	○	△~ ○	△~ ○	○	×	△	×~ △	発生前~ノビエ 2.5L	長	小		
エトベンサニト	酸アミド系	根>幼芽>茎葉	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	×	△	×	×	×	×	×	発生前~ノビエ 2.5L	長	小		
オキサンクロメポン	オキサンノン系	根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	○	×	×	×	×	×	×	発生前~ノビエ4L	長	中		
カフェンストロール	トレアゾール系	根、基部、茎葉	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	○	○	○~ ○	○	△~ ○	×	△~ ○	×	発生前~ノビエ 2.5L	極長	極小		
カルフェントラゾンエチル	トリアゾリノン系	茎葉部	—	クロロフィル合成阻害	生育抑制 葉鞘褐変	×	○	○	○	△	○	×	○	△	—	中	小	
キノクラミン(ACN)	キノン系	茎葉(根)	接触性	光合成阻害	葉鞘褐変 葉身白化	×	△	△~ ○	△~ ○	×	○	×	×	○	発生始~盛期	短	小	
クミロン	尿素系	根部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	△	○	×	×	○	×	○	○~ ○	×	—	長	極小	
シクロピリゴート	ピリカジンシンオン系	根部、基部	—	クロロフィル合成阻害	白化	△	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	長	極小
クロメプロップ	フェノキシ系	基部>根=茎葉	ホルモン型 移行性	ホルモン作用の攪乱	生育抑制	×	○	○	○	○	○	×	—	—	発生前~発生始	長	中	
シクロスルファムロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	△	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	小~ 中	
シハロップブチル	フェノキシブロビン酸系	茎葉	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	×	×	×	×	～ノビエ4L(粒) ～ノビエ6L(乳)	短	小		
ジメタトリン	トリアシン系	根、幼芽	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	△	○	○	○	○	△	○	—	—	発生前~ノビエ1L	極長	小	
シメトリン	トリアシン系	根	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	○	○	○	○	△	△	×	×	×	発生前~ノビエ2L	長	小	
タブイムロン	尿素系	根	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	△	○	×	×	○	×	○	○	×	発生前~発生始	極長	小	
テニルクロール	酸アミド系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	○	×	○	×	×	発生前~ノビエ2L	長	小	
テフリルトリオニ	トリケトン系	根、基部	移行性	クロロフィル合成阻害	白化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	長	中	
トリアフアモン	スルボンアリト系	根、基部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	×	×	○	○	○	○	○	発生前~ノビエ5L	長	中	
ハロスルフオムチル	スルホニルウレア系	根≡幼芽≡茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	△~ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	中	
ヒドロクニル	—	根、基部>茎葉	接触性	クロロフィル合成阻害 生育抑制	葉鞘褐変	○	○	○	○	○	○	△~ ○	○	○~ ○	発生前~ノビエ2L	長	極小	
ヒドロキンフェン	タブイシン系	幼芽、根	移行性	クロロフィル合成阻害	クロロシス	○	○	○	○	○	○	○	×	○	発生前~ノビエ1L	長	小	
ヒドロスルフオエチル	スルホニルウレア系	根≡幼芽>基部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	△~ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	中	
ヒドリゾレート	タブイシン系	幼芽>根	移行性	クロロフィル合成阻害	クロロシス	○	○	○	○	○	○	○	—	○	発生前~ノビエ1L	長	小~ 中	
ヒドリタリト	ヒドリミジニカルボン酸系	根部>基部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	×	○~ ○	△	×	○	—	—	発生前~ノビエ3L	長	極小	
ヒドリチカルブ	チオカーペメト系	根>基部>茎葉	移行性	物質転流阻害、老 化促進	生育抑制	○	○	○	○	○	—	△	—	—	発生前~ノビエ 1.5L	極長	極小	
ヒドリミスルファン	スルボンアミド系	根部、基部、茎葉部	—	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~ノビエ3L	長	中	
ヒドリミノバクチメチル	ヒドリミジニカルボン酸系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	×	×	×	×	×	発生前~ノビエ 3.5L	長	中	
フェノキサスルホン	イソキサンリン系	根部、茎葉基部	—	超長鎖脂肪酸合成 阻害	生育抑制	○	○	○	○	△~ ○	×	△	×	×	—	極長	小	
フェントラミト	テトラゾリノン系	根、幼芽部	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	○	○	○	○	△	×	×	×	×	発生前~ノビエ 2.5L	長	極小	
ブタクリール	酸アミド系	幼芽部>根部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	○~ ○	×	○	×	×	発生前~ノビエ 1.5L	長	小	
ブタミホス	有機リン系	幼芽	移行性	細胞分裂・伸長阻 害	生育抑制	○	△	○	○	△	×	△	×	×	発生前~ノビエ 1.5L	長	小	
フルセトスルфон	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	△	○	○	○	○	△	発生前~ノビエ3L	長	中	
ブレチラクリール	酸アミド系	幼芽、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	×	○	○	—	—	発生前~ノビエ 1.5L	中~ 長	小	
ブロビスルフロン	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~ノビエ3L	長	小	
ブロモブチト	酸アミド系	幼芽、根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	○	○	△	○	△	○~ ○	○	△	発生前~発生初期	長	中~ 少	
フルビリテウキシフェンペングジル	ヒドリジンカルボン酸系	根部、基部、茎葉部	ホルモン型 移行性	ホルモン作用の攪乱	ロール葉 生育抑制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	長	極小	
ペノキスラム	スルボンアミド系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	～ノビエ5L	中	中	
ペンスルフオムチル	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸合成阻害	生育抑制	×	○	○	○	○	○	○	○	○	発生前~発生盛期	長	中	
ペンソリビンシクロン	タブイシン系	根部=基部≡茎葉	移行性	クロロフィル合成阻害	クロロシス	○	○	○	○	○	△	○	×	○	発生前~ノビエ1L	長	極小	
ペンソリフェナップ	タブイシン系	根>基部>茎葉	移行性	クロロフィル合成阻害	クロロシス	○	○	○	○	△	○	△	×	○	発生前~発生始期	長	小	
ペンタゾン	タブイシン系	茎葉、根	接触性 移行性	光合成阻害	葉枯れ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	雑草生育期、発生 盛~増殖期	長	大	
ペントキサゾン	オキサリジンシンソン系	根、基部≡茎葉	接触性	クロロフィル合成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	○	○	○	○	△~ ○	○	—	—	—	発生前~ノビエ 1.5L	長	極小	
ペンフレセート	ペンソリフラン系	根、幼芽部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	○	○	○	○	—				